

大阪ハイエンドオーディオショー報告(2015.11.6)

大阪ハイエンドオーディオショーは11月6日から8日まで心齋橋ハートンホテルで、オーディオセッション in Osaka 2015は11月7日から8日まで南船場ハートンホテルで開催されました。大阪ハイエンドオーディオショーには11月6日に、オーディオセッションには11月7日に行ってきました。以下は大阪ハイエンドオーディオショーの報告です。

<http://www.axiss.co.jp/OHAS.html>

<http://www.denden-town.or.jp/nasa/session/index.html>



全般的な印象としては、アナログ復権というトレンドが見えていたことと、デモにおいてじっくり聴かせるような音源が採用されていたことでした。意外なことは DSD その他ハイレゾのデモがあまり見られなかったことで、こちらの出展メーカーとしてはブームが一巡して落ち着いたということかも知れません。

まずは、新顔ですが、Yarland Japan というメーカーの真空管アンプのデモが行なわれていました。Data Gate という大阪の会社が取扱っていて、真空管やスピーカーやアクセサリもカタログに記載がありました。



新製品としては、アクシス扱いの **lumen white light anniversary** を聴くことができました。15年ぶりの進化ということのようです。



アキュフェーズの試聴室ではフューレンコーディネートから借りたというピエガのクラシック 802 という新しいスピーカーを聴くことができました。アキュフェーズのアンプやプレイヤーよりこちらの方に興味が行ってしまいました。



トライオードの試聴室では、TRX-745 という UV845 のパラシングルアンプのデモがありました。ドライブ段まで 845 が使用されている超弩級アンプです。



ラックスの試聴室では MQ-300 で Voxative のスピーカーを駆動していました。アキュフェーズと同様、昨年からのデモ用の駆動スピーカーを替えたことで印象が変わりました。



以上は、いずれも駆け足でしたので、その真価を云々できる状況ではありませんが、機会があればじっくり聴いてみたいと思っています。

既にお馴染みのもので、これまでと同様、好感を持ったものに下記のようなものがあります。

ステラとゼファンの試聴室では、静電ユニットをもった Janszen のスピーカーがタンホイザー序曲を鳴らし切っていましたし、マグネパンも以前の印象と同様、平面型スピーカーの位相の良さを感じ取ることができました。



Harbeth の Super HL-5 plus は[河口無線の試聴会](#)で好感をもったスピーカーですが、小音量でもしっかりした音場表現を聴かせてくれていました。



キゾアコースティックもいつもながら小型ながらスケール感のある空間を表現できていました。



ノアの試聴室では6月の[大阪サウンドコレクション](#)と同じく、Sonus Faber のオリンピカに Enigma の Sopranino を足すデモをやっていました。既に Sopranino を導入していますので、その効果は自宅と同様、納得のいくものでした。駆動アンプはオーディオリサーチの真空管プリメインアンプでこれも好感を持ってました。さらに Sonus Faber の新製品カメレオンのデモもありました。なお、Sopranino と同形式の静電型ヘッドフォンの展示もありました。



以上、駆け足で回っただけで、評論家の先生の講演とデモは、席がなくて聴かずじまいでした。いくつかの新製品はあったものの、もっとも好感を持てたのは、Enigma の Sopranino と Harbeth の Super HL-5 plus と Janszen の静電型ユニット搭載スピーカーくらいで、例年にくらべて特に興味を引くような動きはそれほど感じられませんでした。

以上